資料４－２

女性の視点からみる防災・災害復興対策に関する提言（2008）

特定非営利活動法人イコールネット仙台

１．意思決定の場における女性の参画の推進

（１）防災・災害復興対策に関する意思決定の場に、女性を責任者として登用する。

（２）防災計画策定段階に女性の参画をすすめる。

（３） 女性のもつ専門的知識やネットワーク及び地域レベルで蓄積された知識や経験を活用する。

（４）各種防災政策において、女性の視点を反映させるため、防災担当部局に女性職員を積極的に配置していく。

（５）避難所・仮設住宅の運営への女性の参画をすすめる。

２．女性の視点を反映させた避難所運営

（１）性別に配慮した避難所の設計を工夫する。
（授乳室、男女別更衣室、男女別トイレ、プレイルームなど）

（２）救援要員への女性の参画、女性向け物資の備蓄、女性（高齢者、障がいのある人等）に配慮した設備や相談窓口を運営マニュアルに盛り込む。

（３）避難所内のトイレを安全な場所に設置するなど、警備体制を整え、女性や子どもが性被害にあわないように配慮する。

（４）避難所で、調理室や洗濯場などが避難生活の場として利用できるように配慮する。

（５）避難所に女性のためのクリニックや助産師によるからだの相談窓口を開設する。

（６）避難所における掲示物等に多言語または絵文字等誰にでもわかる表現方法を使用する。

３．多様な女性のニーズに応じた支援

（１）女性は、子どもや介護の必要な高齢者や障がいのある家族の世話をする立場にあって、自分ひとりの意思では行動できない場合がある。そういう人たちを最優先に支援できるようなシステムをつくる。

（２）在宅の被災者や障がいのある人にも正確な情報や物資がもれなく届くよう配慮する。

（３）災害時及び被災後、外国籍の人々にも被災者としてのサポートを行う。その際、出身地によって文化が異なるので、被災者のニーズにあった配慮を行う。

（４）心とからだのケア等被災した女性のための相談を無料で提供し、利用しやすくする。

（５）障がいのある人（障がいのタイプ）、妊産婦（妊娠期）、乳幼児（月齢）、病人（病気の種類）、高齢者（年齢）、セクシュアル・マイノリティ等のニーズを踏まえたきめ細かなサポート体制を整備する。

（６）帰宅困難者の支援においても、女性や子ども、高齢者、障がいのある方への配慮は必要。短期間の避難であっても、宿泊場所やトイレ等についてニーズに沿った対応が必要。

４．労働分野における防災・災害復興対策

（１）災害時には災害特別休暇が男女ともに取得できるようにする。

（２）災害を理由に不当に解雇された女性に対する労働相談窓口を速やかに開設する。

（３）ひとり親家庭や離職した女性に対する経済的支援や自立支援を行う。

５．災害時における DV 防止のための取り組みの推進

（１）災害時のような混乱時には、レイプや DV が起こることを予測した取組みをすすめる。

（２）男性がストレスからの暴力を弱者（女性・子ども・高齢者等）に向けないような取り組みをすすめる。

（３）電話や面接相談の開設や一時的保護施設が通常施設以外にも用意されるようにする。

（４）性暴力被害者が責められることなく訴えることができ、支援されるシステムをつくる。

６．防災・災害復興に関する教育の推進

（１）女性の災害・復興アドバイザーを育成し、地域に住む人々の支援体制を実効性のあるものに整備する。

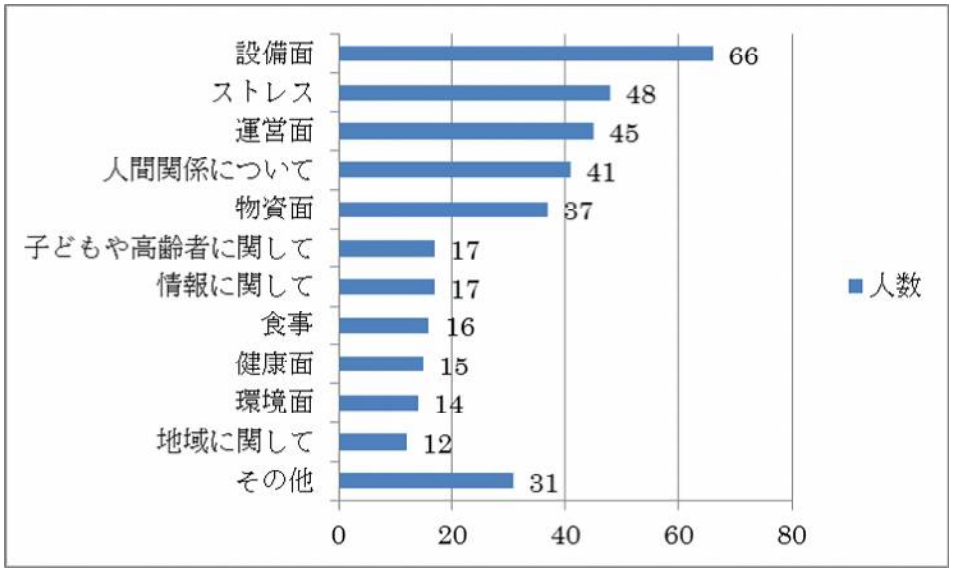
（２）妊産婦、乳幼児を持つ女性、介護をしている女性等を対象に、防災に関する研修や訓練の機会を提供する。その際、臨時の託児所やショートステイサービスなど参加しやすくするための環境づくりをすすめる。

（３）防災に関して、自治体の防災担当職員の人材育成及び地域の防災リーダーやボランティア組織・NPO 等のリーダーの育成をすすめる。

（４）災害にかかわる正確な情報を入手する方法や情報を伝えるネットワーク形成に向けた研修を地域レベルで行う。

東日本大震災に伴う「震災と女性」に関する調査（２０１１年９月・１０月実施）

避難所生活を経験して感じたこと（自由記載）　　N＝２５５



＜自由記載の主な内容＞

① プライバシーがないため、家族で大事な話ができない。

② 仕切りがなく、プライバシーが守れなかった。

③ 監視されているようで辛かった。

④ トイレの水が流れず、大勢の人が使うので不衛生。

⑤ 暖房設備もない上に、床が冷たく寒くて我慢できなかった。

⑥ 狭いので、横になることもできず、身動きができなかった。

⑦ 洗濯機がいつまでもつかず、ついても電源や水の問題で使えなかった。

⑧ 夜中には、いびきや夜泣き、せき込む声、トイレに通う人の足音などで眠れない日が続いた。

⑨ 集団生活でのストレスが大きかった。

⑩ 女性リーダーがいなかったので、女性ならではの悩みを言えなかった。

⑪ 物資の支給を受ける時は並ばなければならないので、お年寄りや障がい者は大変だったと思う

⑫ 着の身着のままなので、衣類（下着）がほしかった。

⑬ 車中避難のため、食料がもらえなかった。

⑭ 寝るのも食事も同じ空間なので衛生上心配だった。

⑮ ペットの毛やほこりでアレルギーを起こし、かゆみやせきがひどかった。

⑯ 介護を必要とする配偶者を連れて避難。気を遣った。

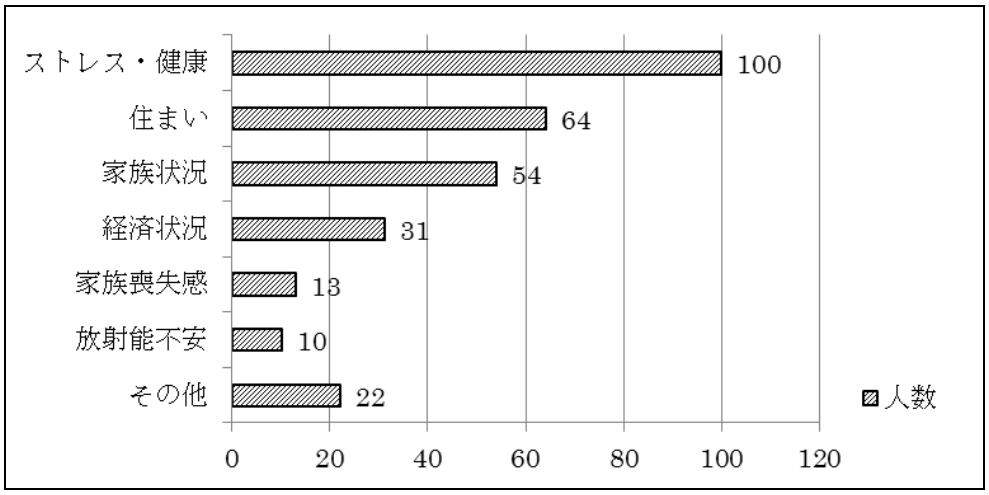
⑰ 乳児を抱えての避難。母乳が止まり、ミルクをあげようにもほ乳びんもミルクを溶かすお湯もなく困った。

⑱ 知的障害のある子どもを連れて避難したが、まわりに迷惑をかけないか心配だった。

⑲　歩行困難の祖母を連れていたので、トイレなど苦労した。

震災を経験して抱えた困難（自由記載）

（１）家族について　　N＝３３８



＜自由記載の主な内容＞

① 震災後、夫が脳梗塞で倒れ、人が変わり、暴力をふるうようになった。・

② 寝たきりの夫を自宅で介護していたが、自宅が被災したので、避難所に行くことにした。

③ 家族の持病が悪化し、介護が必要になり、仕事に出られない。

④ 両親の体調が不安定になり、以前より生活や通院の手助けが必要になった。

⑤ 仮設の中には一人のスペースがなく、家族のストレスがたまる。

⑥ 仮設住宅が狭いために分散して暮らしている。

⑦ 親戚宅に避難し、気遣いが大変。　⑧被災した親戚や親との同居で負担が大きい。

⑨ 重度障がいの夫二人暮らし。トイレその他の点から避難生活は無理。大きな余震で自宅が損壊したらと思うと不安。

⑩ 義母が人との交流が少なくなったため認知症がすすんできた。・

⑪ 普段は子どもが一人で留守番しているため、一人で過ごさせるのが不安で、本人より心細くなってしまった。

⑫ 子どもが震災の恐怖で離れたがらない。　⑬　子どもが不登校になった。

⑭ 主人の理解のなさ。仮設住宅の中に一緒にいるのが苦痛。自分の居場所がない。

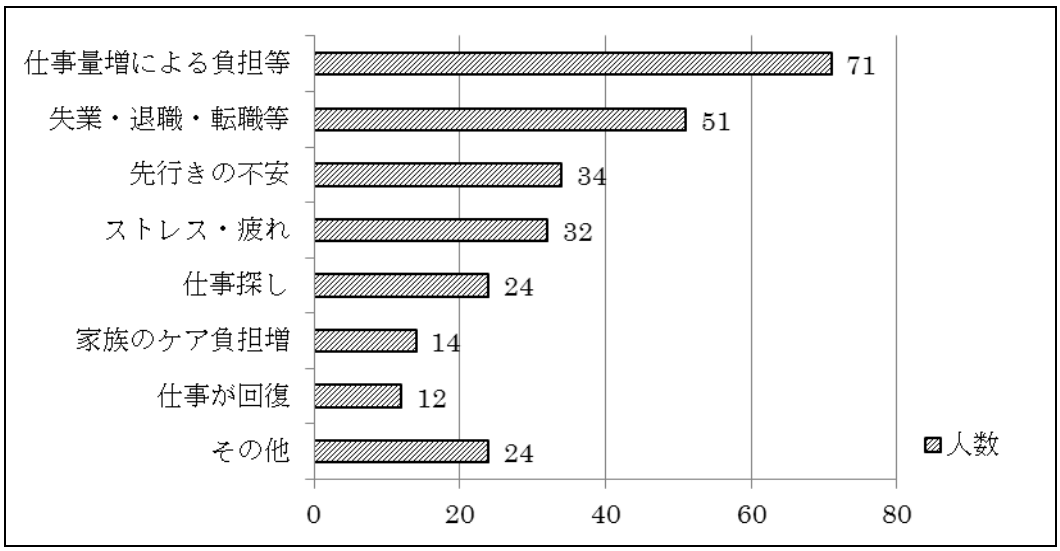
⑮ 夫の酒量が増えた。

⑯ 夫の職場が全壊になり、退職し、職場を変えたが、収入減となった。

⑰ 新卒で正社員で雇用が決まっていたが、震災でパート扱いになってしまった。労働時間も激減。自立できない状態。

⑱ 頼りになる両親が亡くし、今後どうしてよいか迷う。

（２）仕事について　Ｎ＝２４１



＜自由記載の主な内容＞

① 過重労働が続いている。

② 仕事が激減して収入が減った。数人のスタッフが転居などで退職した。残ったスタッフの負担が多くなり、仕事がうまく回らないためストレス。

③ 職場も流失し、仮設施設となって遠くなり、通勤困難で転職せざるを得なくなった。

④ 勤め先が閉鎖したため、失業した。

⑤ 収入が震災前と比べて半分になった。

⑥ 勤務先が被災して仕事量が減少したため退職するよう会社から求められた。就活がすすまず、まだ新しい仕事が見つからない。

⑦ 会社が被災したので、育休後の復帰ができるか不安。

⑧ 緊急時、家庭と仕事の両立は著しく困難になる。通勤が困難。

⑨ 職場が被災し、解雇となった。仕事が見つからない。

⑩ 正規社員からパートに切り替えられた。　＊採用が延期された。

⑪ 震災を体験し、家族を守れるのは自分しかいないと思い退職することにした。

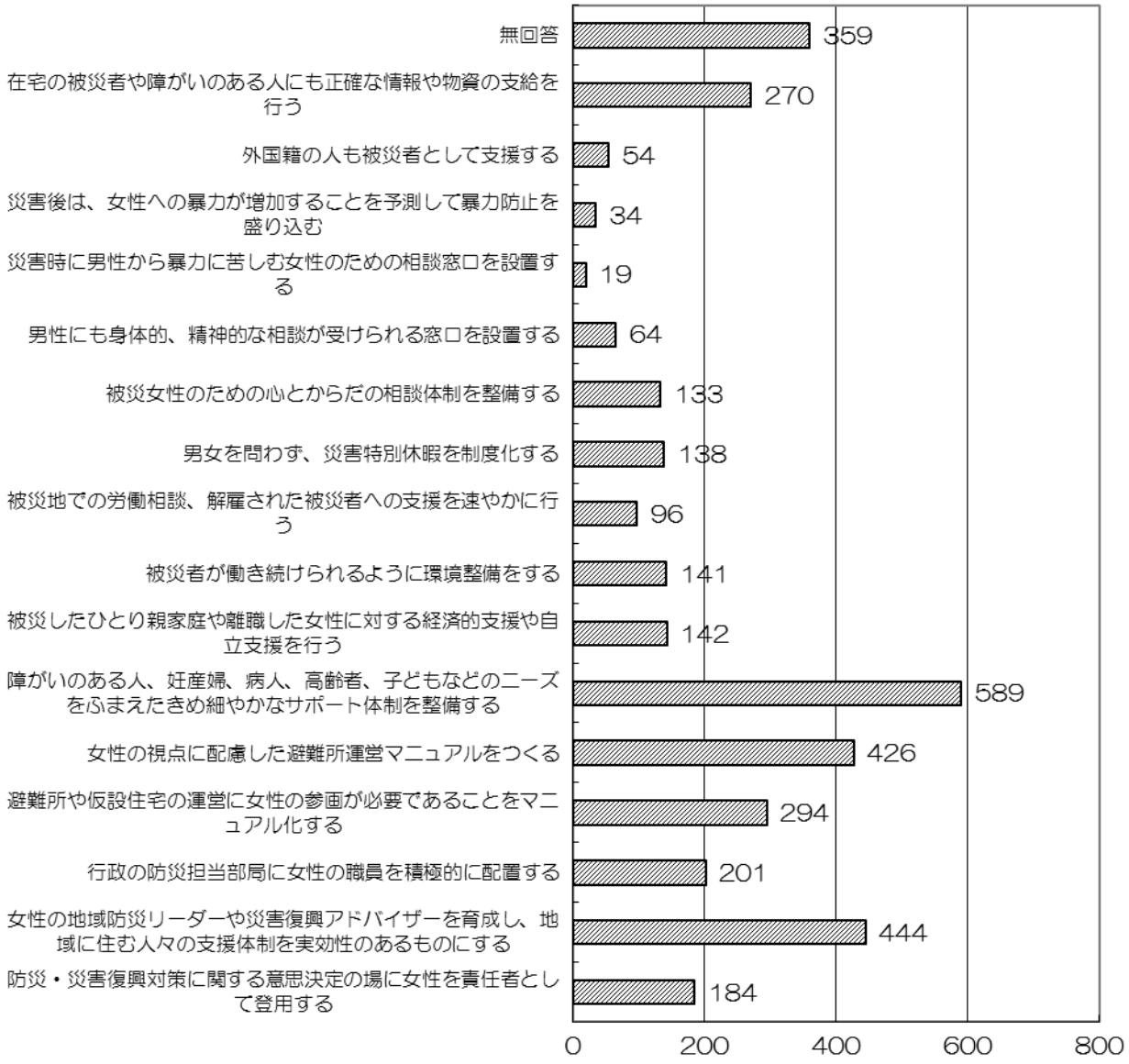
⑫ 仕事量が増え、精神的にも辛く、ストレスがたまる。

⑬ 休みもとれない残業続きの中、ストレスが原因で不正出血を起こした。体が動かなくなっでも仕事をこなさなければならない現実に疑問。

⑭ 家族のケアをしたくても仕事をしなくてはならない。行かなくてはならない辛さを感じ、心ない言葉で家族を傷つけたこともあった。

⑮ 家事や買物ができない高齢者がいたので大変だった。災害時の特別休暇があればいいと思う。

⑯ 子どもの預け先がなく、職場で子どもと寝泊りさせてもらった。

⑰ 公的な仕事なので、大きな災害では出勤しなくてはいけないが、年老いた親を置いて出勤するすまなさがある。

復興計画に 女性の視点を反映するために盛り込むべき内容　N＝1511